ALTERNATIVE FINNSTYLE

フィンランドで建造されたボート数十隻がトゥルクの南、Nauvo島Naguに集結した。2年に一度3日間にわたり開催されるフィンボートショー。フィンランド製ボートを世界に広めるためフィンランド舟艇工業会が主宰する、メディアのためだけに開催される特別なボートショー。その中でも「TARGA 35」は、力強い伝統的なデザインで他を圧倒する。古くからワークボートスタイルをプレジャーボートに取り入れ、「フィンボート=ワークボートスタイル」と世界に広めたフィンボートのレジェンド「TARGA（タルガ）」。今もなおフィンボートを牽引し続ける、その魅力をフィンランドからお届けする。

text: Yoshinari Furuya
photo: Kari Wilén [FINNBOAT], BOTNIA MARINE
special thanks: FINNBOAT
BOTNIA MARINE
https://www.targa.fi

TARGA 35+ AD CFC

PB2017.02_P068-074.indd 68-69 2016/12/19 16:28

アフトドアを追加し、ルーミーなフォアキャビンを実現した「TARGA 35+ AD CFC」
ワールドマーケットを視野に、熟成と進化を重ねるTARGAのベストセラーモデル

「TARGA（タルガ）」シリーズを建造するのは1976年創業の「Botnia Marine」。40年の歴史を持つ伝統あるボートビルダーだ。創業者は、Johan Carpelanとその妻Britt-Marie Carpelanの二人。フィンランド西海岸北部の町Vasaの南およそ20kmに位置するMalaxで建造を始める。Botnia Marineは、フィンランド伝統の造船技術が認められ、北欧を中心にセールスを拡大。堅実な経営によりファミリービジネスの形態を守り続けている。10年前には、2代目となるRobert Carpelanも加わり次世代に受け継がれている。

初期のBotnia Marineは、セールボートとモーターボートの建造からスタート。セールボートは当時北欧で人気だったワンデザインクラスのH-Boat。1977年から2004年までの28年間に1,005艇を建造した。また1981年～1987年には、セーリングクルーザーも建造した実績がある。一方、ボート建造は、1977年にH-Boatと同時に「Botnia 23」を建造。このモデルは、伝統的なダブルエンダーのクリンカー張りという古典的なハルデザイン。キャビンもフロントウインドシールドが逆傾斜したフィンランド伝統のデザイン。当時からこの愛らしい「Botnia 23」の人気は高く、1991年まで建造が続けられ、650艇が進水している。

そして1984年、ボートビルダーTarga Yachtsから「TARGA 25」の生産権を手に入れ、総合的な製品開発をスタート。これが、現在まで続く「TARGA」シリーズの始まりである。その後、1989年に「TARGA 29」、1991年に「TARGA 27」、1992年に「TARGA 23」、1995年に「TARGA 33」、1997年に「TARGA 30/31」、1998年に「TARGA 37」、そして1999年ついに「TARGA 35」が進水。35フィートのサイズにアウトドライブのツインエンジンは、シングルハンドでも使い易く、工夫されたレイアウトはボートステイに十分な生活空間を持ち、「TARGA」はフィンランドのボートの代名詞と言われるまでになった。

*

フィンボートショーの桟橋にブランニューの「TARGA 35」が舫われている。ワールドプレミアから17年経つ成熟したモデルを今、このメディア向けボートショーで発表した理由。それは、インテリアとエクステリアの変更と、新しいデザインの追加、そしてボルボペンタ・アクアマティックのジョイスティック導入により、フルモデルチェンジと言えるほどの大幅な変化がもたらされたからだ。

新生「TARGA 35」の特徴の一つは、キャビン後方がアフトドア仕様のADバージョンを選択できるようになったこと。リアドアとも呼ばれるキャビン後方のドアは、世界的には左右スライドドアよりも一般的だ。だが、フィンボートを代表するワークボートスタイルのボートはこれまで、作業性の高さからウォークアラウンドとサイドスライドドアの組み合わせを踏襲。そのためサイズの割にキャビンは犠牲になっていた。限られた空間を広く利用するため、敢えてアフトドアは作らず、その下になるマスターキャビンを広く取ってきたワークボートスタイル。だが、世界のマーケットを考えれば、一般のプレジャーユースにはアフトドアが待ち望まれていたのだ。

*

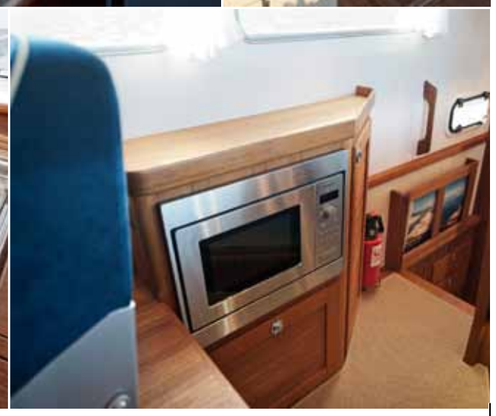
アフトドアからキャビンに入る。ADの実現には、メインサロンのソファをコンパクトにして、通路を作る必要があった。アフトキャビンへのエントランスも必要だ。すぐ左舷側の扉を開けると、階下に下がる階段がある。その下にはゲストルーム。天井は低めだが、フルビームを利用した部屋はワイド。ダブルベッドとシングルベッドを組み合わせた3人が寝られるトリプルルームとなっている。ダブルベッドを中心に、シングルベッドを子供用やユーティリティスペースに使い、マスターキャビンにしてもいいだろう。スターボード側の壁にはジャケットやオイルスキンをかけるコートフック。寒く、荒れる天候も多い北国のボートならではの装備。嬉しい配慮だ。

メインサロンにはL字ソファと大型のテーブル。ポートサイド前方の2人掛けナビゲーターシートの背もたれを前方に倒せば、広々としたU字ソファとなる。ヘルムステーションとヘルムシートはスターボード側。ヘルムシートのすぐ横にはサイドスライドドア。ヘルムシートからすぐにデッキに飛び出すことができる。体を外に乗り出してステアリングやスロットル、ジョイスティックを操作することもできる。ドッキングの時には一人2役、ヘルムスマンとクルー

PB2017.02_P068-074.indd 70-71 2016/12/19 16:28

フィンランドスタイルと呼ばれるTARGA、SARGO、NORDSTARの3ビルダーうち、最も多くのチークを使ったインテリアで落ち着いた印象のTARGA。ギャレーやフォアキャビンもチークの扉で仕切られ、高級感あふれた空間になる。

フィンランド伝統のウッドワークがTARGAの特徴でもある。テーブルの折れる造作や、ソファやカーテンの生地、パイピング処理など、ディテールへのこだわりが高い上質感を生み出す。



の役目をこなすことも可能だ。

ヘルムステーションもよく考えられている。ステアリングホイールやスイッチ類が並ぶヘルムステーションは、操船時にはコンソールボックス全体を手元側に、係留時には前方へ移動することができる。ステアリングホイールが邪魔にならず、サイドスライドドアからのアクセスがスムーズになる。

ギャレーは、ヘルムステーションの反対側、ポートサイドのナビゲーターシートの前。天板を大きくポート側に開けると現れる。小さなシンクと2口コンロがコンパクトに収まる。このギャレーのポジションは、トローラー的な使い方ができる。インサイドパッセージや運河、湖などフラットな海面を低速でクルージング中、オートパイロットを設定し、ワッチをしながら、暖かいスープやドリンク、簡単な料理を作ることができる。

ヘルムステーションとギャレーの間、センターのドアからバウ側に降りると、マスターステートルームにふさわしい広々としたナイトスペースが現れる。この試乗艇は、フォアキャビンの天井高を高くした、オプションの「CFC（Comfort Fore Cabin）」仕様。スタンダードタイプにはない、ゆったりとしたヘッドクリアランス。2ステップ分高くなったバウデッキ、背の高いドッグハウスが、広くルーミーなキャビン空間をもたらしてくれた。スカイライトハッチが明るく、専用のトイレ＆シャワールームも備わる快適なフォアキャビン。CFCは、バウバースを小さなゲストキャビンから快適なマスターキャビンへと昇華させた。

この試乗艇は、もう一つ、大きな仕様変更がなされている。スタンダード仕様「TARGA 35」の全長11.76mに対し、この「TARGA 35+」の全長は12.15m。「35+」は、0.39m延長されたトランサムステップ「ネガティブトランサム」仕様を意味する。世界的なトレンド

エンジンはコンパクトで低燃費、低振動、低騒音な、最新のボルボペンタD6-400馬力×2基がアフトデッキの下に収まる。最後部に搭載されるアクアマティックのおかげで、クラスを超えるミジップのキャビン空間とキャビン内の静音性を叶えることができた。

PB2017.02_P068-074.indd 72-73 2016/12/19 16:28

チークを多用した、落ち着きあるアコモデーションが品のあるくつろぎの空間を実現。天井高がステップ2段分高いCFC（コンフォート・フォアキャビン）バージョンのキャビンは、スタンダード仕様とは全く違うボートに思えるほど、ゆとりある空間に生まれ変わっている。

でもある大型化するスイミングステップ、水際の遊び場が広がったのも時代に応じた変化の一つだ。

＊

そして、「TARGA」が選ばれる理由は走りにある。「The 4×4 of The Sea」を自称するシーワージネス。堅牢な船体は、衝撃や音を防ぎ、荒れた海を安心して乗り切る剛性を持つ。アウトドライブらしいクイックなレスポンス、操船者の思い通りのマニューバを描くことができる。最新のボルボペンタ・アクアマティックのジョイスティックコントロールが、真横への移動や、イージードッキング、定点保持を可能とする。そして、経験豊富なベテランドライバーを何より驚かせるのは、走行時のバランスやハンドリングだ。インアウトと聞かなければインアウト艇だとは思わないだろう。過去のインアウト艇の悪い特徴は全く感じられない。IPS艇を操船している感覚に近い。しかもボルボペンタD6-400馬力×2基のトルクフルなエンジンは、立ち上がりも非常にスムーズ。30ノットでクルーズ、トップスピードは40ノットを超える高次元の走りを見せる。

＊

ワールドプレミアから18年を迎えようとしている「TARGA 35」。発表時にアワードに輝いたベストセラーモデルはさらなる進化を遂げ、伝統のシーワージネスやマニューバビリティに、現代的な快適さを追求した数々のオプションが加えられた。熟成を重ねた「TARGA 35」に、死角は見当たらない。

SPECIFICATIONS . . . . . TARGA 35+ AD CFC

全長　12.15 m（OP ネガティブトランサム含む）
全幅　3.50 m
喫水　1.15 m
重量　7.80 ton
エンジン　2 × VOLVO PENTA D6-400/DP
最高出力　2 × 400 HP
燃料タンク　1,185 L
清水タンク　185 L
スピード　Max 43 kt
問い合わせ先　ウインクレル
TEL: 045-681-0104
http://www.wslc.co.jp/yacht/

facebook

PB2017.02_P068-074.indd 74-75　2016/12/19 16:28